



# 岡山大学理学部

# 同窓会会報

Faculty of Science Okayama University Alumni Association



2021.10  
第10号

## 岡山大学理学部同窓会役員名簿

令和3年4月1日現在

役員	氏名	所属等
会長	本水昌二	名誉教授
副会長	市岡優典	理学部長(教授)
理事	近藤慶	数学科長(教授)
理事	池畑秀一	名誉教授
理事	石野宏和	物理学科長(教授)
理事	味野道信	グローバル人材育成院教授
理事	久保園芳博	化学科長(教授)
理事	岡本秀毅	化学科准教授
理事	川本平山	全学同窓会理事(化学科)
理事	阿保達彦	生物学科長(教授)
理事	西村美保	生物学科助教
理事	浦川啓	地球科学科長(教授)
理事	野坂俊夫	地球科学科准教授
理事	横谷尚睦	附属界面科学研究施設長
監事	中越英樹	副学部長(教授)
監事	金田隆	副学部長(教授)

## 令和2年度 岡山大学理学部同窓会会計報告

(単位:円)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
1 前年度繰越	2,633,926	1 事業費	587,262
2 会費	1,002,130	(1) 理学部同窓会実施事業 278,181	
(1) R2年度入学生 620,000		会報誌製作費 1500部 150,750	
@5,000×124名 620,000		会報誌送料 1067通 117,370	
(2) 卒業生(振込) 382,130		宛名ラベル 10,061	
@5,000×76名 380,000		(2) 全学交流行事業	-
@10,000×1名 10,000		(コロナ禍で実施できず)-	
振込手数料 △7,870		(3) 就職活動支援事業	-
3 預金利息	24	(コロナ禍で実施できず)-	
		(4) 同窓生進学支援事業 309,081	
		研究奨励金(博士後期)3名 300,000	
		表彰用品、封筒 9,081	
		2 事務費	-
		3 繰越金	3,048,818
		(1) 普通預金 3,034,237	
		(2) 小口現金 14,581	
合計	3,636,080	合計	3,636,080

## ■編集後記 岡山大学 Alumni(全学同窓会)の新たな国際奉仕活動

長期にわたるコロナ禍にあって世界と日本は未曾有の困難に直面しました。基本的な感染予防対策の徹底とワクチン接種の普及により、収束に向けた展望も開けた感があります。岡山大学では、7月9日から岡山商科大学など近隣の大学を含めた学生や教職員、併せて1万2000人を対象にした大規模接種会場(大学拠点接種)を津島キャンパスに開設しました。一日も早くコロナが終息して、安全・安心な社会生活と経済活動の復活を願うばかりです。

岡山大学 Alumni(全学同窓会) 理事 川本平山

## お問い合わせ先

### 岡山大学理学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内  
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777  
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp  
<http://www.science.okayama-u.ac.jp/alumni-sci/>



OKAYAMA UNIVERSITY

【会則】平成24年3月5日 制定

平成30年7月25日 改正

(名称) 本会は、岡山大学理学部同窓会(以下、「本会」という。)と称する。  
(目的) 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。

(事業) 第3条 本会は、目的を達成するために次の活動を行う。  
一 総会の開催  
二 会報の発行  
三 会員名簿の管理  
四 その他、本会の目的達成に必要な事項

(構成) 第4条 本会は、所在地を岡山市北区津島中三丁目1-1岡山大学理学部内に置く。  
2 本会は、事務局を設け、事務職員を置くことができる。  
3 本会は、必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。

(学科同窓会) 第5条 本会は、学科及びそれに関連する大学院卒業者に別に組織する同窓会(以下「学科同窓会」という。)と連携協力を得て、本会の事業を行う。

(会員) 第6条 本会は、次の項に掲げる会員をもって構成する。  
一 正会員  
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生  
二 学生会員  
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学学生  
学生会員は、卒業することにより正会員となる。  
三 特別会員  
岡山大学理学部及びそれに関連する大学の教員及び技術職員並びに事務(室)長として在職した、又は在職する者  
その他、理事会において入会を認めたる者  
2 本会の会員は、氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは、本会事務局に届け出るものとする。

(学科同窓会の会員) 第6条の2 学科同窓会の会員は、本会の正会員に準じて取り扱うこととし、その取扱いは別に定める。

(役員) 第7条 本会に、次の役員をおく。  
一 会長 1名  
二 副会長 1名  
三 理事 若干名  
四 監事 2名

第8条 役員は、次のとおり定める。  
一 会長は、会務を統括する。  
二 副会長は、会長を補佐し、事務局を統括する。  
三 理事は、会長に協力し、会務を執行する。  
四 理事は、各学科会員を代表し、本会と各学科会員との相互連絡にあたる。  
五 理事は、本会の目的達成に必要な役務(総務・会計・広報・名簿管理等)を分担する。  
六 監事は、会計及び会務を監査する。

第9条 役員は、次のとおり定める。  
一 会長は、会員の中から推薦するものとし、理事会で選出する。  
二 副会長は、岡山大学理学部長をもってあてることとする。  
三 理事は、学科毎に学科長を含めて2名程度とし、理事会で選出する。  
四 監事は、理事会で選出する。  
五 会長、副会長、理事、監事の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議) 第10条 会議は、総会、理事会及び役員会とする。  
第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、理事会の議を経て、会長がこれを召集する。  
第12条 理事会は、会長、副会長、理事及び監事を以て組織し、会長がこれを召集する。  
2 理事会の議長は会長又は副会長がたる。  
3 理事会は、年1回以上開催し、次の各号に掲げる事項を審議する。  
一 会則及び施行細則の改正に関する事項。  
二 会務及び業務報告に関する事項。  
三 決算承認及び予算の議決に関する事項。  
四 その他、役員会において必要と認めたる事項。  
4 理事会は役員過半数の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。

第13条 役員会は、会長・副会長で構成する。  
2 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。

(支部の地域) 第14条 本会の目的を達成するため、理事会の承認を得て、地域ごとに支部を置くことができる。

(支部組織) 第15条 支部は、その地域内の会員をもって組織する。

(支部地域変更) 第16条 支部は、理事会の承認を得て、地域を変更することができる。

(支部の役員) 第17条 支部に役員として、代表幹事1人及び幹事若干人を置く。  
2 支部の役員は、当該支部の会員の中から選出する。  
3 代表幹事は、支部を代表し、支部の会務を執行する。  
4 幹事は、代表幹事を補佐する。

(支部の会則) 第18条 各支部は、当該支部に関する会則を定めることができる。  
2 支部がその会則を定めた場合は、理事会に報告するものとする。

(支部幹事会) 第19条 各支部にそれぞれ支部幹事会を置き、代表幹事及び幹事をもって構成する。  
2 支部幹事会は、必要に応じ、代表幹事が招集し、代表幹事がその議長となる。  
3 支部幹事会は、支部の運営に関する事項を協議する。

(支部の経費) 第20条 支部の経費は、当該支部所属会員の負担とする。  
2 本会は、支部に補助金を交付することができる。

(会計) 第21条 本会の運営に要する経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。  
第22条 本会の会費を次のとおり定める。  
一 正会員は、入会金(終身会費)5,000円を納付するものとする。ただし、既に学生会員である者の入会金は不要とする。  
二 学生会員は、入会金(終身会費)5,000円を入学時に納付するものとする。  
三 既に学科同窓会の会員であって本会に入会する者は、その入会金を免除する。  
四 会費の納付方法については、別に定める。

第23条 本会の運営に要する経費にあてるため、会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。  
第24条 会計担当理事は毎年、理事会或いは会報で本会の会計を報告する。  
第25条 監事は、毎年本会の会計を監査する。  
第26条 会計担当理事は、正会員の要求があれば会計帳簿を随時開示しなければならない。  
第27条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(補則) 第28条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、理事会の議を経て別に定めることができる。  
2 理事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

(附則) 1 この会則は、平成24年3月5日から施行する。  
2 この会則は、平成24年3月卒業者から適用する。  
3 会計管理は、事務局が行い代表者は事務局長とする。

(附則) 1 この会則は、平成30年7月25日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

### 岡山大学理学部同窓会 別表

名称	地域名	設立年月日	代表者	連絡先
岡山大学理学部同窓会	本部	平成24年3月5日	会長 本水昌二	理学部事務局 086-251-7764
岡山大学理学部同窓会 関東支部	関東地区 (東京、千葉、神奈川、埼玉、 栃木、群馬、及びその周辺)	平成30年4月1日	代表幹事 米森重明	米森重明 090-5330-2391

## 岡山大学・理学部と RIIS の更なる発展に期待!

理学部同窓会員の皆様におかれましては、新型コロナ禍ではありますが、ご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。

岡山大学では学生・教職員、近隣の大学などを対象にコロナウイルスワクチンの大学拠点接種が7月9日に開始されました。安全で安心できる対面授業、課外活動等を祈っています。

理学部に関係する明るい話題、異分野基礎科学研究所(RIIS)の新棟竣工式(5月挙行)をお知らせ致します。多くの理学部教員・学生が研究に参画し、協力されています。理学部と共に一層の発展が期待されます。

最近発表された注目論文数ランキングによれば、日本はG7中最下位、しかもインドにも抜かれ10位に転落したようです。このランキングで研究力の全てが評価されるものではありませんが、残念な気持ちと我国の将来的発展への劣勢が心配されます。主な理由として研究者数(年間博士号取得者数:アメリカの6分の1、更にポスドク不足)、研究費不足、教員(リーダー)の業務繁多の3点が挙げられています。中でも他国に比べ博士号取得者数、若手研究者(ポスドクなど)数の不足が致命的欠陥であろうと思われます。

理学部同窓会では、昨年度から博士後期課程進学支援事業として、進学者に研究奨励金を差し上げることになりました。より多くの方が進学し、研究者としての道を歩んでいただくことを期待しています。

最後に、同窓会の方々には今後とも温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申しあげ、挨拶に代えさせていただきます。

## 岡山大学理学部同窓会会員の皆様へ

皆様いかがお過ごしでしょうか。同窓生の皆様には、日ごろより岡山大学理学部の教育・研究活動へのご支援を賜っておりますこと、誠に感謝いたしております。

昨年から新型コロナウイルス感染症により社会全体が大きな影響を受けておりますが、本学でもオンライン授業と、実験等を中心とした対面授業を組み合わせ、感染防止対策を徹底しつつ教育活動の継続に努めております。このような中ですが、現在、理学部では建物関係で大きな変化を迎えています。まずは今春、2号館の南側に5階建ての「異分野基礎科学研究所棟」が竣工しました。ここに、理学部教員のうちの異分野基礎科学研究所に属する数学・物理・化学・生物の教員が集まり、異分野の交流・融合を促進して研究を進める体制が整いました。ついで、この秋から2号館の改修が始まります。新しい2号館では1階は生物・物理の実験室と附属工場、2階から4階は数学の研究室となり、こちらも新しい教育・研究の環境が整うこととなります。

今年のホームカミングデーは残念ながら中止となりましたが、岡山大学及び理学部の活動についてホームページで情報発信しておりますので時折ご覧いただければと思っております。

最後になりましたが、皆様方がますますご活躍されますとともに、理学部同窓会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

## ▼活動報告

2021.9.29~10.4 理事会(メール会議)開催

2020.8.7~8.17 理事会(メール会議)開催

2019.10.26 理学部同窓会を開催

2019.9.4 理事会開催

2019.7.27 理学部同窓会関東支部総会を開催

2019.5.22 理学部同窓会関東支部交流会を開催

2018.10.20 理学部同窓会を開催

2018.7.28 岡山大学 Alumni(全学同窓会)

東京支部、各学部支部と合同総会・交流会

2018.7.25 理事会開催

2018.4.1 理学部同窓会関東支部設立

2017.10.21 理学部同窓会を開催

2017.7.26 理事会開催

2016.10.22 理学部同窓会を開催

2016.9.7 理事会開催

2015.10.17 理学部同窓会を開催

2015.9.2 理事会開催

2014.11.20 理事会開催

2014.10.18 理学部同窓会を開催

2014.8.21 理事会開催

2013.10.19 理学部同窓会を開催

2013.9.4 理事会開催

2013.3.6 理事会開催

設立記念総会並びに懇親会開催

2012.7.4 理事会開催

ホームページを公開

岡山大学理学部同窓会設立





# 各学科近況報告

## 数学科 Department of Mathematics



4月より伊藤敦先生が名古屋大学より数学科の准教授としてご着任されました。ご専門は代数幾何学です。このことは本学科の学生達がより広い分野を学ぶ機会が増えたことを意味します。さて、新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年同様に主にオンラインによる講義・演習が行われております。しかしながら、本来数学は学生が主体的に演習やセミナー等を通して黒板の前で自身の考えを説明しながら教員および学生との問答を通して理解を深めて行く学問であるため、教育を行う側としてこの状況は苦しい限りです。なお、現在理学部2号館の改修が行われており、改修工事完了後(2022年2月下旬を予定)、数学科は1号館から2号館へ引越す予定です。来年度は、生まれ変わった2号館で講義・演習が対面で再開されることを切に願っております。



数学科長 近藤 慶

### VOICE 卒業生からの声

私は学部で曲面論の講義でRiemann多様体の曲率と位相の関係に興味を持ち、数学科卒業後は自然科学研究科に進学しました。大学院進学後は普段の学習やセミナーにおいて、学部の頃と比較して聞き手・読み手を意識する機会が大幅に増え、それに対応する中で私の日々の勉学の密度も高くなっていると感じています。今後は現在の研究に関連する論文からの知見の修得に励み、修士論文が書けるように一歩一歩着実な努力を重ねたいと思います。



富田 周  
(2021年3月 理学部数学科卒業)

## 物理学科 Department of Physics



笠原成教授が令和3年4月に京都大学から着任されました。野原教授の後任です。超伝導の実験的研究のますますの発展が期待されます。また、今年度中に笠原研究室に准教授が新たに着任する予定です。本学独自の事業であるRECTORプログラムに宇宙物理学分野が新たに選ばれ、10月にテニユア・トラック助教が着任予定です。最新の物理学科の教員構成や研究成果等は、学科のホームページをご覧ください。今年度当初は新型コロナウイルスの影響で全ての授業がオンラインでしたが、感染症対策の強化により、一部ではあります対面授業が再開されました。活動制限がかかっていますが、学生さんには少しでも多くの大学生活を楽しんでもらえたらと思います。大変困難な局面ですが、教員・学生が一丸となって乗り越えられることを祈ります。



物理学科長 石野 宏和

### VOICE 卒業生からの声

私は今年の3月に学部を卒業し、現在は修士1年として宇宙物理学研究室に在籍しています。研究内容は太陽の核融合で発生した電子ニュートリノを検出するための超伝導検出器の開発です。研究を進めていく中で、学部で習った物理学やデータサイエンスの知識が非常に役に立っています。研究は学部よりも主体性、問題解決能力が求められ大変ですが、その分成長できていると感じています。今後も様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。



風早 和也  
(2021年3月 理学部物理学科卒業)

## 化学科 Department of Chemistry



理学部化学科の学部教育は、現在 学術研究院自然科学学域と異分野基礎科学研究所に所属する教員が担っており、化学科の学生が進学する大学院博士前期課程分子科学専攻の教育についても同様にそれぞれの組織に所属する教員が担っています。博士後期課程については、前者の教員が地球生命物質科学専攻に、後者は学際基礎科学専攻に所属して教育を担っております。今年度は、異分野基礎科学研究所棟の新築と、2号館の改築が進んでおり、化学科の研究室の配置もこれまでとは大きく変わっています。コロナ下でするので、各種の活動にも制約がありますが、教職員・学生ともに教育と研究で大きな成果が得られるように、新しい環境下で頑張っ



化学科長 久保園 芳博

## 生物学科 Department of Biology



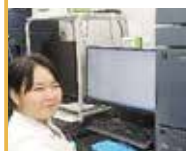
今年度もCOVID-19の影響で、4月の新入生と教員の対面式、歓迎会、5月の研修旅行などが中止になりました。5月からは岡山県でも緊急事態宣言が発令され、1-2学期のほとんどの講義や実験がオンラインとなり、教員も学生も対応に追われました。このような強い制約がかかった状況の中でも、研究と教育を止めてはならないという強い信念のもと、できる範囲での活動が行われました。現在も感染状況が好転しませんが、ワクチンの接種が行われており、一部の講義や実験が対面で実施されています。教員の異動としては、今年3月末に富岡憲治教授が退官され特任教授となり、4月から松井鉄平准教授が着任されました。また、臨海実験所の濱田麻友子先生が准教授に昇任されました。3月に沈建仁教授が日本植物生理学会賞を受賞されました。



生物学科長 阿保 達彦

### VOICE 卒業生からの声

私は2015年に生物学科を卒業し、現在は広島県の丸善製薬株式会社にて研究開発業務に従事しています。主に植物から抽出した有効成分を、医薬品、化粧品、食品、日用品等の分野に提供しています。植物が生産する成分が動物にとって有効成分となること、植物特有と思っていた成分が実は動物にも存在しており、なぜそうした現象が生じるのか、日々興味深く感じています。生物学科にて動物、植物、菌類と多様な生物を用いて生命の基本原則を学ばせていただいたことが非常に役立っています。



金澤 まい  
(2015年3月 理学部生物学科卒業)

## 地球科学科 Department of Earth Sciences



2020年10月に井上麻夕里准教授が教授に昇任され、2021年4月に道端拓朗さんが九州大学から准教授として着任されました。驚いたことに、井上さんは理学部初の女性教授です。今後のご活躍に期待します。一方、道端准教授は新冠30歳、気候を専門としておりJSTの創発的研究支援事業に採択されるなど将来を嘱望されている方です。現在の教室メンバーは教授7名、准教授4名、助教1名、事務担当職員1名、技術職員1名です。今年度の新入生は26名、3年次編入生は2名です。学科の情報はホームページで随時更新しています。



地球科学科長 浦川 啓

### VOICE 卒業生からの声

自然科学研究科卒業後、超硬合金の製造会社であるサンアロイ工業(株)で働いています。脱コロナの課題を頻りに目にするようになって久しい世の中に合わせて、会社では環境や社会に対応した新材料の開発を目指して日々奮闘しています。会社における研究も大学時代の研究と同様に、自身の知的好奇心を大切にしながら実験を行うことを心がけています。また、学会や展示会に積極的に参加し新鮮な情報を得て自身の感覚をブラッシュアップすることもあります。現在は第二子の育児休業をとり、2022年春に復職する予定です。公私ともに充実した日々を過ごしています。



中塚 明日美  
(博士前期課程 2011年度修了)

## 附属臨海実験所

Marine Laboratory



写真の説明:ムラサキカイメンなど海綿の仲間は、動物の進化の面では非常に重要ですが、磯に出た実習生からは動物であると認識してもらえないのか、なかなか採集してもらえません。ヒトデ類など何とも言わなくてもやたらと採集してくれるのですが...

本学同様、附属臨海実験所での教育・研究も、今年度もコロナの猛威の影響を受けております。臨海実習Ⅰ(生物多様性)は中止、他の臨海実習(環境DNAなど)も例年よりもずっと少ない人数でこじんまりと行われました(参加した実習生については人数が少ないぶん、例年よりもいくぶん充実していた様ですが)。研究活動についても、実験所での日常の研究、学外との共同研究活動ともに苦しい状況です。



所長 坂本 竜哉

## 附属界面科学研究施設

Laboratory for Surface Science



気体と液体、液体と固体など異なる物質同士が接触する境界面を界面(表面)と呼びます。普段は余り使わない言葉かもしれませんが、石鹸などの洗剤があぶらになじみやすい部分と水になじみやすい部分を併せ持つ分子(界面活性剤)を主成分として含むことを考えると、我々の生活にも密接に関連していることが想像できると思います。界面(表面)における原子、分子の配列は物質内部(バルク)とは異なっているため、界面に特有の性質が発現します。そのため、界面(表面)においてバルクとは異なる特性の探索が活発に行われています。附属界面科学研究施設では、人間の生活に役立つ特性を示す物質の開発を目指し、物理系と化学系の教員がそれぞれの専門分野の研究を展開してきました。また、広島大学放射光科学研究センターに設置された岡山大学ビームライン(上図)を活用し教育研究を行ってきました。界面(表面)を利用した新たなデバイス開発や超伝導(ある種の物質の電気抵抗が、その物質に特有な温度(超伝導転移温度)以下でゼロになる現象)を示す新物質開発と超伝導機構の解明を目指して活発な研究が行われています。



施設長 横谷 尚睦

## 異分野基礎科学研究所

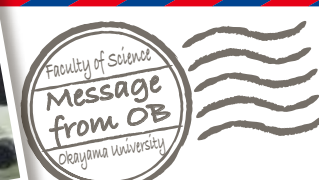
Research Institute for Interdisciplinary Science



2021年3月に異分野基礎科学研究所棟の新営工事が理学部コラボレーションセンターの東隣に完了し、5月12日に新棟の竣工式が行われました。式には横野博史学長、理事、部局長および教職員が参加し、その後に学長らが新棟の内覧を行いました。これまでに複数の建物に分散していた基礎研のほとんどの研究室が新棟に集まり、異分野融合研究がこれまで以上に進展することが期待されます。また、超伝導・機能材料研究コアの高温超伝導材料研究分野には、4月に笠原成教授が着任し、10月に木原工准教授が着任する予定です。また、同コアのエネルギー貯蔵物質研究分野に篠田渉教授が着任する予定です。新しい環境に新しいスタッフを迎え、教育・研究の更なる発展を進めます。



所長 高橋 裕一郎



**池田 光希**  
(2021年3月 理学部化学科卒業)

私は昨年度、岡山大学理学部化学科を卒業し、今年度から岡山大学大学院自然科学研究科分子科学専攻の大学院生として研究に勤しんでいます。また、数年前から新設が予定されていた異分野基礎科学研究所棟が昨年度末に完成し、今年度から新しい研究棟にて活動しています。この新棟への引っ越しにあたり、研究室では装置や機器の梱包や実験室のレイアウトの考案などで非常に慌ただしく大変でしたが、綺麗で快適な新研究棟での生活は非常に充実したものとなっています。一方、新型コロナウイルス禍においては従来の生活を送ることはとても困難となっていますが、先生方や大学職員の方々の尽力により、新しい生活スタイルで毎日過ごすことができている。大学院の講義は、そのほとんどはオンラインで行われていますが、学部生の頃よりも数段高い知識や思考力が要求されるものとなっています。また、研究室では新しい実験を開始し、少しでも良い結果が得られるように努力しています。最近では、オンラインでの学会発表に向けて準備を進めています。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、現状では収束の目処が立たない状況下ではありますが、それに屈することなく有意義な日々を送っていきたくと考えています。